

大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 神戸大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

神戸大学及び大阪大学の世界標準の教育を基盤に、ASEAN諸国との連携・協働により、ASEAN諸国の課題への的確な問題解決能力及び英語による実践的コミュニケーション能力を有する、医学・保健学グローバルリーダーとして活躍できる医師、教育研究者、高度医療専門職者、医療産業人を養成する。

【構想の概要】

神戸大学、大阪大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学を中心にコンソーシアムを構成し、ASEAN諸国との連携・協働により、短期間の派遣プログラム、単位を認定する交換留学及び博士課程の学位取得プログラムという多層的な派遣・受入交流プログラム等を企画・展開する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

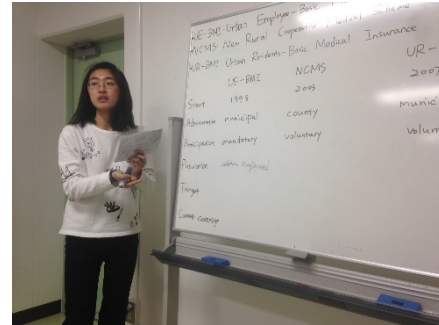
○ ダブルディグリープログラム実施に向けた協議

マヒドン大学シリラート病院医学部(タイ)に引き続き、神戸大学大学院医学研究科とガジャマダ大学医学部(インドネシア)の間でダブルディグリープログラム実施に向けたMOUを締結している。また、パジャジャラン大学医学部(インドネシア)とダブルディグリープログラム実施に向けたMOUの締結に関する協議を進めている。

○ 学生交流の継続に向けた取り組み

平成27年度末に外部評価委員会から本事業に対する評価を受け、本事業の終了後もこれまでと同様のプログラムを展開するための取り組みを行っている。具体的には、大学毎の受入人数の見直しや大学毎に交渉を行う担当教員を決め、本事業終了後も教育の質の維持や教職員の負担を考慮した上で、継続した学生交流ができるよう制度の見直しを図っている。

(ディベートクラスでの学生発表の様子)



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(現地の健康教室への参加・見学)

○ 病院実習プログラム(4週間)

主に医学部最終学年の学生を対象に、附属病院や地域の医療施設で行われる病院実習プログラムを実施した。2つの診療科を2週間ずつローテーションする研修を基本的なスケジュールとしている。

○ 研究プログラム(2・3ヵ月)

大学院生を対象に、各学生のそれぞれの専攻に応じた研究や調査を行う研究プログラムを、派遣先大学の研究施設や保健センター等の関係施設で実施した。

○ 学位取得プログラム

コンソーシアムを構成する大学に所属する学生を神戸大学大学院に受入れ、博士号取得を目指す学位取得プログラムを実施した。H27年度末に1名が博士(保健学)を取得した。また、H29年度に2名、H30年度に1名が博士(医学)取得予定である。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

平成24年度は11名、平成25年度は24名、平成26年度は28名、平成27年度は27名、平成28年度は39名の派遣を行った。平成29年度以降も、個別計画実習として各大学に40名程度を派遣する予定である。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	11	24	28	27	39
学生の受入	3	23	38	55	48

○ 外国人留学生の受入れ

平成24年度は3名、平成25年度は23名、平成26年度は40名、平成27年度は59名、平成28年度は51名の学生受入を行った。平成29年度以降もElective Program (<http://www.med.kobe-u.ac.jp/elepro/>) 参加学生として、各大学から原則3名の受入予定としている。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 留学生バディ制度による学生間交流の促進

日本人学生を留学生の学業や日常生活の補助を行う学生として雇用する「留学生バディ(旧称:留学生チューター)」制度を採用した。この制度により、学生間交流を促進することができる。また、派遣学生以外の学生も海外の医療制度等を知る機会や英語コミュニケーション能力を向上させるための良い機会となった。さらに、留学生バディを行ったことをきっかけに海外派遣を希望するようになった学生もいる。

○ ディベートクラスの開講による医学に関する英会話能力の向上

日本人学生や受入学生が参加する医学に関するテーマで議論を交わす「ディベートクラス」を平成28年度に開講した。参加人数は延べ235人(平成28年度)にのぼり、クラスへの参加をきっかけに留学に興味を示すようになった学生もいる。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ ホームページやセミナーによる成果の普及

本プログラムの日本語及び英語のホームページ (<http://www.med.kobe-u.ac.jp/asean/>) を作成し、イベント情報や学生レポート等の情報を発信した。また、保健学研究科で開催された成果報告会(H28年12月)等でも、得られた成果を議論・発表した。